

<第2弾>Press Release

クルマを超えて、クルマを愉しむ。 Classic Meets Modern and Future

AUTOMOBILE COUNCIL 2024

- 1.2つの主催者テーマ展示
 - ①「アイルトン・セナ没後 30 年 特別企画 駆け抜けた天才の記憶」
 - ②「Designed by ピニンファリーナ」: この展示は、来年以降の主催者展示に延期します。
- 2. 特別展示 初の「American Heritage」
- 3.「ART COUNCIL 2024」併催 ART作品展示を独立・拡大

AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

4月12日(金)から14日(日)の3日間、千葉県千葉市・幕張メッセで開催する「AUTOMOBILE COUNCIL 2024」の主催者テーマ展示、特別展示が決定しました。また、2020年からスタートしたアート作品の展示 規模を 2024 年は拡大し、「ART COUNCIL 2024」として独立・併催、8 ギャラリーが出展します。

<1> 主催者テーマ展示

1. アイルトン・セナ没後 30 年 特別企画 駆け抜けた天才の記憶

日本では「音速の貴公子」と呼ばれたアイルトン・セナ。その彼が、 イモラでのレース中の不可解なクラッシュで還らぬ人となって、30 年が経過しました。あまりにも早く夭折した不世出の天才F1ドライ バーの輝かしい功績を讃え、長く記憶にとどめるために、 AUTOMOBILE COUNCIL 2024会場に彼が操った3台のF1マシーン を展示します。

※展示車両の詳細・写真は、別紙①参照。



世界のデザインの潮流をリードしたイタリアのカロッ ツェリア。中でもピニンファリーナはタイムレスビュ

この展示は、緊急企画展示「In Memory of さ# Marcello Gandini」実施のため、来年以降 先 スロ 駆けの主催者展示に延期します。

進性も誇ったカロッツェリアです。そんな古典と先進 を両立したピニンファリーナが産んだ数多くの名車か ら、選りすぐりの5台をセレクトして展示します。 ※展示車両の詳細・写真は、別紙①参照。



<2> 特別展示「American Heritage アメリカンへリテージ」の名車達

オイルショック以前、世界のモータリゼーションをリードして いたのはまぎれもなくアメリカ車でした。先進の装備、パワフ ルなエンジンに加え、その独特なデザインは欧州や日本のメー カーに多くの影響を与えました。そんな古きよきアメリカ車の 持つ独特な魅力を再確認できる企画です。AUTOMOBILE COUNCIL9回目にして、"アメ車"ファンからの要望に応え、初 めて大々的にアメリカ車をフィーチャーします。

※展示車両の詳細・写真は、別紙②参照。



<3>「ART COUNCIL 2024」併催

多様な角度から自動車文化・大人の文化の成熟を目指す AUTOMOBILE COUNCIL は、その一翼を担う 複数のギャラリーを幕張へ招聘し、"アートカウンシル"を併催します。アートを愛するクルマ好き、ク ルマを愛するアート好きは、「美の追求」という面で志を同じくし、両者が交わることでこれまでにな い豊かな時間と空間を創出します。※出展ギャラリーおよび展示作品・作家等は、別紙③参照。

ク



〈主催者テーマ展示-1 アイルトン・セナ没後30年特別企画 駆け抜けた天才の記憶〉

●1985 JPS ロータス 97T ルノー

1985 年、F1 デビュー2 年目のシーズンのセナに初優勝をもたらしたマシーン。第 2 戦ポルトガル GP で自身初のポールポジションを獲得。雨の決勝でも他を寄せつけず、3 位以下を周回遅れにする圧倒的勝利を達成。また、やはりウェットコンディションとなった第 13 戦ベルギーGP でも予選2 位からスタートし、独走で2 勝目を挙げた。「雨のセナ」の異名を最初にもたらしたのがこのロータス 97T ルノーである。



●1990 マールボロ・マクラーレン MP4/5B ホンダ



前年日本 GP 終盤、一触即発の状態になっていたプロストとセナが、鈴鹿のシケインでまさかの同士討ち。セナが失格となり結果的にプロストがシリーズチャンピオンの座に着くという後味の悪い結果に終わった F1。その翌シーズンは、プロストがフェラーリに移籍して、セナ対プロストの図式はマクラーレン MP4/5B・ホンダ対フェラーリ 641 の対決にもなった。そして、この年の日本 GP でもスタート直後のセナとプロストが接触コースアウト。この時点でセナにとって 2 度目のワールドチャンピオンが決まるという幕切れをもたらした。

●1991 マールボロ マクラーレン MP4/6 ホンダ



セナに最後のワールドタイトルをもたらしたのがマクラーレンMP4/6ホンダだった。MP4/4のV6ターボ、MP4/5シリーズのV10に対し、MP4/6ではV12を搭載。3.5ℓから735ps以上を発揮したという。第2戦ブラジルGPでは終盤にギアボックストラブルに見舞われたものの、6速のみで走行。見事母国グランプリで初優勝を遂げた。これを聞きつけたフェラーリが果たしてそんなことが可能なのか検証したが、マラネッロのエンジンでは無理だったというのは有名な話し。それだけセナの操縦テクニックが秀でるうえに、ホンダV12の特性がフレキシビリティに富んでいたということだ。

<主催者テーマ展示-2 Designed by ピニンファリーナ>

※この展示は、緊急企画展示「In Memory of Marcello Gandini」実施のため、来年以降の主催者展示に延期します。

●1967 フェラーリ 330 GTC



275GTB と 365GTB/4"デイトナ"に挟まれた、60 年代的クラシックスタイルの集大成がこの 330GT と言えるだろう。スタイリングを担当したのは、ピニンファリーナの 60 年代黄金期を支えた名匠アルド・ブロヴァローネ。レーシングプロトタイプ P3 直系の 4 ℓ SOHC V12 を搭載。ギアボックスをデフもろともリアに積むトランスアクスルを採用するなど進歩的設計と、抑制の効いた、クラシカルなボディに、マスキュリンなスパイスを絶妙にブレンドした 2 シーターボディの傑作だ。性能とハンドリングは超一級。しかし、スーツを着ても似合うフェラーリである。

●1969 フェラーリ 365GT 2+2



同じくアルド・ブロヴァローネによる傑作。しかし、こちらは 2+2 なのでより一層エレガントに仕上げられている。なだらかに下降するファストバックの長いルーフラインはリアエンドまで続き、やはり後ろ下りのフェンダーラインと絶妙に交差する。まるで煌びやかな女性が着るイブニングドレスの裾のように優雅で伸びやかな面構成は必見だ。リアのダンパーはコニと共同開発したセルフレベリング機構をフェラーリロードカーとして初採用している。V12 エンジンは SOHCのまま 4.4 ℓ に拡大されている。

●1975 フェラーリ 365GT/4BB



ブロヴァローネに次ぐスターデザイナー、レオナルド・フィオラヴァンティが担当したフェラーリ初のミドエンジン・ベルリネッタが BB だ。原型は 68 年トリノショーで発表した P6。この新時代の美しさに「これはブリジッド・バルドーじゃないか」と言ったのが BB の車名の由来。しかし、まさかフランス人女優の名前をそのまま用いるわけにはいかず、フェラーリは Berlinetta Boxer という語呂合わせを考えだした。カリスマ創始者エンツォの保守的な方針によりミドエンジン化が遅れたフェラーリだったが、ミウラのプロポーションが

クラシックだったのに対し、BB のそれはウルトラモダンだった。

●1983 ランチア ベータ モンテカルロ



ベータ・モンテカルロほどデザインプロセスで大きな変更に翻弄された例は珍しいのではないか? 最初はプロジェクト X1/20。すなわちフィアットの若者向け FWD 小型クーペとしてスタートした。ピニンファリーナでデザインを担当したのは、天才の名を欲しいままにしたパオロ・マルティン。あの未来的なフェラーリ・モデュロをデザインした傑物だ。ところがある日フィアットから技術要素の変更が届く。なんとミドシップ後輪駆動への大転換だった。しかし、サプライズはこれだけに

とどまらない。ある日マルティンが出社すると、ノーズのエンブレムがランチアに変更されていたのだ。 こうして紆余曲折の末生まれたのがモンテカルロだった。樹脂パーツを大胆にグラフィックの要素として 採り入れた最初の成功例と言えるだろう。

●1980 ランチア ガンマ クーペ

日本に正規輸入されていないので認知度は低いが、ランチア・ガンマ・クーペのデザインは美しい。ガンマ・ベルリーナより 115mm 短いホイールベースに前後オーバーハングの長い 2 ドアボディを架装。これぞ真のスペシャルティカーと呼びたくなる優雅なスタイリングを実現している。デザインを担当したのはアルド・ブロヴァローネ。上記フェラーリ 330GTC や 365GT 2+2 とはまったく違うテイストのエレガンスを見せつけ、その引き出しの多さに



驚かされる。エンジンは水平対向 4 気筒。駆動方式は FWD。それゆえ低いノーズと 4 人の大人が乗れる ルーミーさまで獲得している。ピニンファリーナデザインの一番の特徴はタイムレスであること。そして 実用性にも優れること。ガンマクーペのスタイリングが何よりそれを雄弁に物語っている。

<特別展示「American Heritage アメリカンへリテージ」の名車達>

●1970年式ダッジ・チャレンジャーR/T 440+6 コンバーチブル

フォード・マスタングやシボレー・カマロが火をつけたポニーカーカテゴリーにクライスラーが1970年にダッジブランドから投入したのがチャレンジャー。その特徴はスポーティなルックスだけでなく、多くのエンジンバリエーションや装備をチョイスできることで、若者から富裕層までをターゲットにした。中にはハイパフォーマンスなV8エンジンもチョイスでき、オイルショックまで隆盛を極めたフッスリカー・ブイントをはくませんます。



マッスルカームーブメントをけん引したモデルといえる。展示車両は440(7200cc) V8を搭載する。

●1967年式シボレー・カマロRS

4座のコンパクトでスポーティなスタイルだったポニーカーカテゴリーにGMがシボレーブランドから1967年に投入したのがカマロ。第1世代は2ドアクーペ、コンバーチブルが存在し、走りに注力したハイパフォーマンスなモデルも存在した。コンパクトなボディながら流麗な2ドアクーペスタイルで、ストリートからサーキットまで活躍した名車のひとつ。歴代モデルはアメリカのSCCAトランザムレースで多くの実績を残した。2024年現在は第6世代目となり、今もアメリカ車の定番モデルとして君臨する。



●1976年式AMCジープJ-10



乗用車よりもピックアップトラックが売れるアメリカでは自家用でピックアックを所有することも当たり前の国。各メーカーが多くのピックアップトラックを販売するなかで、当時のAMCがジープのコンポーネントを流用したフルサイズピックアップがJシリーズ。これはそれまで存在していたピックアップトラックであるジープ・グラディエーターの後継モデルとして1971年に生まれた。当時は4輪駆動のフルサイズピックアップは珍しく、ジープの持つ高い悪路走破性は商用からレジャーまで歓迎された。

●1963 年式シボレー・コルベット

第二次世界大戦のヨーロッパ戦線で欧州のスポーツカーに触れたアメリカ人たちの思いが起因となり、アメリカ製 2 シータースポーツとして 1953 年に生まれたコルベット。当時としては先進的だった FRP をボディに採用して軽量化し、そこにパワフルなエンジンを搭載した。アメリカ車の歴史のなかでも数少ない純粋なスポーツカーとしての歴史を今も歩んでいる。その中でも最も人気が高い第 2 世代最初のモデルとなる 1963 年式のクーペはリアウィンドーが 2 分割された「スプリットウィンドー」を持った稀少モデル。



● 1983 年式 AMC イーグル・ワゴン

当時ジープの製造権を持っていた AMC(アメリカン・モーターカンパニー)がその 4WD のノウハウをコンパクトな乗用車のボディに投入することで 1980 年に発売したのがイーグル。乗用車の乗り心地で高い走破性を実現させたモデルとして誕生した。ボディは 2 ドアクーペ、2 ドア・コンバーチブル、4 ドアセダン、4 ドアワゴンが存在し、4 ドアワゴンはもっともユーティリティの高いモデルだった。その発想は現在のクロスオーバーSUV の元祖ともいえる存在で、今見ても当時のアメリカの先進性を見て取れる歴史的モデルといえる。



※展示車両は、予告なく変更になる場合があります。

<「ART COUNCIL 2024」出展ギャラリー・展示作品等について>

【レントゲン藝術研究所準備室】

1991 年、東京大森にオープン、村上隆、ヤノベケンジといった現在の日本現代美術の第一人者たちの初期を支える。「超絶技巧、固体衝撃、怜悧美学」を標榜、工芸的な技術をも取り入れた、現在の日本独特の表現を反映した、人の手による技術の可能性追求と視覚的強度、高度な思索を誘発する作品群を紹介する。今回は地質学をコンセプトにした人気作家、石黒昭と、精緻な溶接技術をもって女性像を生み出し続ける桐山征士を紹介する。

<出展予定作家/作品>

- ・石黒昭/Akira ISHIGURO 「Marblesque」
- ・桐山征士/Seiji KIRIYAMA 「23N」

[3ta2 SANTANI GALLERY]

3ta2 SANTANI GALLERY は 2006 年愛媛県松山市に開廊。 ジャンルを問わずオリジナリティの高い作品の展示を試みています。 また展覧会のみならず、国内外のアートフェアにも参加。 作家の表現の場を広げ、作品の魅力を伝える活動に積極的に取り組んでいます。 瑞々しい芸術に触れる喜びは、何ものにも代えがたいと考えます。

<出展予定作家/作品>

- ・白晃/Hakko 「門」
- ・小原若菜/Wakana OBARA 「Ionely room」
- ・椎橋良太/Ryota SHIIBASHI 「The Origin #41」
- ・山田 茂/Shigeru YAMADA
- ・戸田晶子/Akiko TODA

[AaP/roidworksgallery]

2009 年、芸術文化が集まる上野にほど近い湯島にオープン。時代性を意識した、ストーリーとコミュニケーションのあるギャラリーを目指し、世代を超えて鑑賞できる作品をセレクトした展示企画を行う。また、BS フジ「ブレイク前夜~次世代の芸術家たち~」をプロデュース。若手作家を積極的に紹介する活動を行っている。

<出展予定作家/作品>

- ・木原千春/Chiharu KIHARA 「緋貓」
- ·星山耕太郎/Kotaro HOSHIYAMA 「Jam V |
- ・斎藤亮輔/Ryosuke SAITOH 「Flow-XVIII」
- ・鈴木一世/Issei SUZUKI

[AIN SOPH DISPATCH]

2006年開廊。クォリティの高い作家を発信するプライマリーギャラリーであり続けることを、矜持としています。ギャラリースペースにて年間約8本の企画展示を開催。展覧会を通して若手アーティストの発掘、育成を行いながらアートフェアへの参加、コミッションワーク、外部展示のディレクションにも努めています。

<出展予定作家/作品>

・ふるかはひでたか/Hidetaka FURUKAWA

「日本橋 cityscape」

・山田純嗣/Junji YAMADA 「LAKE DISTRICT - MY CAR」

・黒田恵枝/Yoshie KURODA 「Living will 1/Living will 3」









[BrainBrunnGallery]

時代や流行に左右されない芸術の不変性と芸術本来の意義を追求する現代 美術アートギャラリー。企画展や常設展を通じて、絵画、造形、ミクストメ ディア作品等、現代美術作家のプライマリー作品を紹介しています。ギャラ リー名は「心にあるもうひとつの脳を"ブルン!"と震わせたい」という想い から名付けられました。

<出展予定作家/作品>

・溝渕ゆう子/Yuko MIZOBUCHI 「覚醒 Disillusion」

「コウモリ男 The opportunist #2」

・カミジョウミカ/Mika KAMIJO 「キラキラしてる胃だよーん It's

sparkling stomaaaach!]



[GALLERY IDF]

GALLERY IDF は 2002 年に名古屋で開廊。若手現代美術作家を取り扱うプライマリーのギャラリーとして、アーティストの発掘、マネージメント、展覧会の開催、国内外のアートフェアへの参加等を通して取扱い作家の紹介に努めています。日本人ならではの繊細さ、そしてパワフルな個性を持つ作家を取り扱っております。

<出展予定作家・作品>

- ・鴨 瑞久/Mizuhisa KAMO 「Pottery 2CV / red」「Pottery 2CV / blue」
- ・酒井陽一/Yoichi SAKAI 「after the rain」



[H-ART BEAT GALLERY]

我々の長い歴史の中で、作家はいつの時代にも見る者の心を惹き付けてやまない作品を生み出し続けてきました。そのような作品が21世紀に生きる作家の手によっても制作されることと信じております。2015年開廊のH-art Beat Galleryは、「作品」として成り立つ基本的な要素-優れた技術、構成力、色彩感覚-をもとに独自性、現代的な感性を兼ね備えた作家を紹介していきます。

<出展予定作家・作品>

・今井龍満/Ryuma IMAI 「Tiger」

・安藤しづか/Shizuka ANDO 「見知らぬ隣人たち」

・王 麗楠/Linan WANG 「月象 3」



[Yu Harada]

Yu Harada は前身である SYP GALLERY において単にコマーシャルギャラリーを目指すのではなく、アーティストの自立をサポートしつつ、コマーシャルギャラリーとしての企画の強さを持って世界に発信していくギャラリーを目指してきました。更にその理念を強固なものにするため、原田雄のディレクションにより、国内外で活躍する意欲的で実験的な作家を紹介してまいります。

<出展予定作家/作品>

·前谷康太郎/Kotaro MAETANI

[Flatland 20220723] [Flatland-Dawn 20220812-]



・大野公士 Kouii OHNO/「4 objects-submarine-」

AUTOMOBILE COUNCIL 2024 出展者情報 第2弾

(2024年2月29日 現在 五十音・アルファベット順) 今回のリリースで新たに発表した出展者は、太字標記載

- ■日本車メーカー・インポーター(含 新世代自動車)
- ・トヨタ自動車
- ・ポルシェジャパン
- ・本田技研工業
- ・マセラティジャパン
- ■スポンサー
 - ・エンケイ株式会社
 - ・カーセンサー
 - ・株式会社ニコンイメージングジャパン(出展)
- ■サプライヤー
 - MSERRNT
 - Project Caddy
- ■プレミアムライフスタイル ・**ファクトリーギア株式会社**

 - ・ポリフォニー・デジタル
 - · LYN HINER JAPAN
- ART COUNCIL
 - ・レントゲン藝術研究所準備室
 - · 3ta2 SANTANI GALLERY
 - · AaP/roidworksgallery
 - · AIN SOPH DISPATCH
- ■ヘリテージカー販売店(含 SUV販売店)
 - ・ウインズオート
 - ・ヴィンテージ宮田自動車
 - ・オートダイレクト
 - ・株式会社ガレージイガラシ
 - ・株式会社ガレーヂ伊太利屋
 - ・コレツィオーネ
 - ・ジロン自動車
 - ・スピニングガレージ
 - ・プラネックスカーズ
 - ・ブリストル研究所
 - ・株式会社ホワイトハウス
 - ・ヤナセクラシックカーセンター
 - ・ワラシナカーズ
 - · AUTO ALPHA ONE
 - · Auto Roman
 - · Beck Japan
 - · BESPOKES TOKYO
- ■自動車関連商品等販売店(マルシェ)
- ・アーマーテック / エスアンドカンパニー

- ・アクティブガレージ&アプローチ ・**腕時計専門店 コミット銀座** ・エクステリア・ガレージショップ シービーワークス
- ・オフィス 403
- ・カーエアコンクリーニング
- ・日下エンジニアリング
- ・くるま絵 Yosio
- ・くるまのイラスト 林部研一
- ・国際貿易
- ・コスモ技研
- ・自動車趣味の店 ロンバルディ
- ・人気酒造
- ・三樹書房/グランプリ出版
- ・モデルカープロデュース AOKI(M.P.AOKI)
- ・ヤザワ
- ■オーナーズクラブ
- BMW Club Japan
- · CG CULUB

- ・マツダ
- · 三菱自動車工業
- · BYD AUTO JAPAN
- ・日本ミシュランタイヤ株式会社(出展)
- ・ボッシュ株式会社(出展)
- ZENKAIRACING
- · OA 100 PROJECT
- · THE MAGARIGAWA CLUB
- · The Room / FILO
- · BrainBrunnGALLERY
- · GALLERY IDF
- · H-ART BEAT GA LLERY
- · YU HARADA
- · British label/MLA FACTORY SHOP
- · Buddy Auto
- Classic Camper Japan by RANGERS
- · DUPRO
- · HURTAN JAPAN
- · KOA SPEED
- · Mars Inc.
- · MATSUSHIMA CLASSIC CAR
- · RENDEZ-VOUS
- · Silver Star
- ・株式会社 TAILOR
- · The ALVIS Car Company
- Vintage Car VISCO
- · VW GAKUYA & BLAZE CUT
- · Walter Wolf Racing
- · WANNA DRIVE
- ・リスロン
- · CACAZAN
- · CARESE CO.
- · Carmake Artpro / COLOURLOCK
- · DEEC
- · ELSE DESIGN
- · HARVEST S&M 株式会社
- · HEART BEAT MOTOR CLUB
- · HOSU
- · LE GARAGE
- M2style
- Microlon
- · Modell Auto Enwa
- · Motorimoda
- ・OT オートモビリア
- · VeilSide CO.,LTD
- · MASERATI CLUB OF JAPAN
- · AUTOMOBILE COUNCIL CLUB

AUTOMOBILE COUNCIL 2024 開催概要

名 称 AUTOMOBILE COUNCIL 2024(オートモビル カウンシル 2024)

会 期 2024年4月12日(金)~4月14日(日)

開催日時 特別内覧日 4月12日(金) 10:00~18:00 (プレスタイム 10:00~13:00)

一般公開日 4月13日(土) 10:00~18:00 4月14日(日) 10:00~17:00

会 場 幕張メッセ (千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1)

主 催 AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

協 賛 エンケイ株式会社、株式会社ニコンイメージングジャパン、ボッシュ株式会社、カーセンサー 日本ミシュラン株式会社

オフィシャルラジオ J-WAVE、TBSラジオ、TOKYO FM、interfm

オフィシャル WEB webCG、カーセンサー、CAR トップ、Auto Messe Web、Response

後 援 経済産業省、千葉県、千葉市、日本自動車輸入組合、FIVA(2023 年実績)

特別後援 株式会社カーグラフィック

- 内容 1)メーカー/インポーターによる市販車およびそのヘリテージカーの展示
 - 2) 新世代自動車の展示
 - 3) ヘリテージカーの展示・販売
 - 4) サプライヤー・スポンサーの商品展示およびプレミアムライフスタイル展示
 - 5) 自動車関連商品の展示・販売
 - 6) オーナーズクラブのご案内
 - 7) ART COUNCIL の併催によるアート作品の展示・販売
 - 8) プレシャスライブ、レコードコンサート「MUSIC MEETS CARS」の実施 【プレシャスライブ】

4月12日(金)	15:30~16:30	大谷康子~歌うヴァイオリン~
4月13日(土)	13:30~14:30	渡邊香津美&小沼ようすけ~春の饗宴~
4月14日(日)	13:30~14:30	南 佳孝~摩天楼のヒロイン~

- ※「MUSIC MEETS CARS」は、AUTOMOBILE COUNCIL 2024にご来場いただいた皆様方、 どなたでもご覧いただけます。
- ※出演者・日程は都合により変更・中止になることがございます。その際の入場料の払い戻しはございません(含む前売りチケット)。詳細は、公式ホームページ(URL https://automobile-council.com)で事前にご確認ください。
- 9) トークセッションの実施
- 10) フードコーナーの設置

チケット情報

特別内覧日 4 月 12 日 (金) 10:00-18:00 前売券 6,500 円 当日券 7,000 円 (3,000 枚限定)

一般公開日 4 月 13 日(土) 10:00-18:00 前売券 4,300 円 当日券 5,000 円

4月14日(日) 10:00-17:00 前売券4,300円 当日券5,000円

前売限定チケット ペアチケット 4月13日(土) 10:00-18:00 8,200円

4月14日(日)10:00-17:00 8,200円

前売期間 1月22日(月)~各日前日まで

取扱い:チケットぴあ/ローソンチケット/e+(イープラス)/CNプレイガイド

当日会場にて限定販売 学生チケット 2,000 円 入場可能日 4 月 13 (土) or 14 日 (日)

※学生チケット対象者は、中学生、高校生、専門学校生、大学生。

※乳幼児・未就学児・小学生は、1名に限り保護者1名が同伴し入場可(無料)。

1名の保護者が、複数の小学生以下のお子様を同伴することはできません。

保護者の方は、車両等展示品の保全、お子様の安全を確保いただくようご配慮ください。

※入場料は、消費税を含みます。

URL 公式 Web サイト https://automobile-council.com/

フェイスブック https://www.facebook.com/automobilecouncil/

x (旧・ツイッター) https://twitter.com/Automobile twit

Instagram https://www.instagram.com/automobilecouncil/

一般問合せ AUTOMOBILE COUNCIL 2024 事務局

電話: 03-6380-1011 e-mail info@automobile-council.com

報道関係からの問い合わせ先

AUTOMOBILE COUNCIL 2024 広報事務局

Tel: 090-8940-1683 e-mail press@automobile-council.com